

令和7年度(2025年度) 八王子市立第五中学校 学校経営報告

八王子市立第五中学校
校長 鴨狩 淳一

【理念】

最上位目標である本校の教育目標に帰結する教育活動を地域とともに実現する。

生徒が主体的に、そして当事者意識をもち予測困難な社会の中でも課題解決ができるよう、生き抜く力を付けさせる。

第五中学校グループ(第五中、第一小、第四小)の共通目標

「より高い人間性をめざす人・学び続ける人・健康で生命を大切にする人」の実現を教職員の創意と工夫により合同・一体となった学習活動の取り組みや学校行事等を起点にさらなる小中一貫教育の充実を図る。

学校運営協議会の目標 「つなぐ」

「学校が核」となり「地域」をつなぐ。固くつながれた「地域」が主体となり「家庭」を支え、「学校」を支え、「子ども」を育てる。

【めざす学校像】

伝統と新たな教育活動をベストミックスさせ、生徒に社会で生き抜く力を地域とともに一貫して育て、身に付けさせる学校

- 豊かな心を育成する学校
- 確かな学力を身に付けさせる学校
- 生徒に寄り添い、一人ひとりの良さを認める学校
- 地域と協働し、地域と歩む学校
- 小中一貫教育を推進する学校

【めざす教師像】

高度専門職として学び続け、自信と熱意をもち、凜とした教師

- 人権尊重の精神を重んじ、愛情深い教師
- 熱意をもって授業を行う教師
- 主体的に研究と修養に励み、教育観を磨く教師
- 組織の一員として、責任をもって職務を遂行する教師

基本的な考え方

東京都が策定した東京都教育ビジョン(第5次)「未来の東京」に生きる子供の姿では、自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り開いていくことができること、他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与すると示されている。また、八王子市で策定した八王子未来デザイン 2040 では、生きる力をはぐくむ学校教育の推進として、「確かな学力を育む教育の推進」、「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」、「児童・生徒に応じた支援の充実」が示されている。これらのことを踏まえ、本校では「何のために教育をするのか」「何のために学校があるのか」を改めて問い直し、義務教育9年間を貫いて、全教育活動を通して、子どもに本校の教育目標に基づいて、「社会で生き抜

く力を付けさせる」教育活動を行う。これまでは授業で教師から一方的に教わり、正しく教わったことを表現できれば社会で通用してきた「キャッチ アップの時代」から、社会の環境が激変する近年は、知を生み出す「イノベーションの時代」へと変化し、求められる人材が変わっている。そのため、一斉に、一方的に教えるだけの授業形態から、子どもによる主体的・対話的で深い学びや、学習を自己調整しながら学ぶ個別最適な学び、協働的な学びへと授業形態の転換と充実を図る。

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び学習指導要領等に則し、人権尊重の精神を基調として心身共に健康で、知性と感性に富み、生涯を通じて主体的に学び続け、国際社会に貢献できる人間性豊かな生徒の基本的資質を養う。また、自己肯定感や自己実現の獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識の協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通して向上させる。

この教育目標を実現するために、次の生徒を育成する。

- ◎ 人・地球との共生 〈より高い人間性をめざす人〉(徳)
- 未来社会への知性 〈学び続ける人〉 (知)
- 心身共に健康 〈健康で生命を大切にする人〉(体)

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 豊かな心の育成 【人・地球との共生 〈より高い人間性をめざす人〉(徳)】

自立した一人の人間として人生を他者とともによりよく生きる人格を形成することをめざし、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、人が互いに尊重し調和と協調、協働して社会で生きる上で求められる規範意識を醸成する。また、人としてよりよく生きる上で大切なことは何か、自分はどのように生きるべきか自ら考え、自らの生き方を探求する力を養う。

イ 確かな学力の育成 【未来社会への知性 〈学び続ける人〉 (知)】

第五中学校グループ(第一小・第四小)における学力定着プロジェクトチームを要とし、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。学習活動では幅広い知識と教養を身に付け、生涯にわたり学習する基盤が養われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題解決するための思考力、判断力、表現力等及び主体的に学習に取り組む態度を養う。

ウ 健やかな体の育成 【心身共に健康 〈健康で生命を大切にする人〉(体)】

「生きる力」を支える重要な要素の体力や健康の維持を図るため、運動を通して体力を養い、健康を維持する食育を通して望ましい食習慣や健康的な生活習慣を身に付けさせる。また、生徒の生命を脅かす災害や性暴力等の危険から身を守る力を養う。

→ 年2回の学校評価アンケートの結果として、学校の経営方針の理念「最上位目標である学校教育目標に帰結する教育活動を地域と共に実現する学校」を知っているかについて、7月では「当てはまる」「だいたい当てはまる」の回答が53.7%、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の回答は30.2%であった。12月では「当てはまる」「だいたい当てはまる」の回答が58.8%、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の回答は26.2%であり、学校の経営方針の理念についての理解は増加した。年間を通じた本校の教育活動が、学校の教育目標に帰結できていると感じられている方が半数以上となっていることが分かる。令和8年度はさらに、教育活動を充実させ、全ての教育活動が学校の教育目標とつながりを持ち、帰結していることが実感できるよう教育課程を実施する。

エ 不登校生徒への支援

不登校総合対策「つながるプラン」の趣旨を踏まえ、生徒、保護者に対して寄り添い、将来の社会的自立に向けた支援と誰一人取り残されない学びの保障を学校教育の使命として位置付け、不登校巡回指導拠点校としての役割を明確にし、巡回校等とともに不登校対策に全力で取り組む。

→ 不登校総合対策では、不登校別室指導教室(リソースルーム)における登校支援が充実し、学校には来られないが教室には入れない生徒等が毎日活用し、個別最適な学びを中心に自己調整して教育活動に取り組んでいる。その中から4名の生徒が教室復帰できている。また、給食センターや市立図書館などを活用して出席となっている生徒も複数出現している。併せて、不登校で職場体験などができなかった生徒についても、希望者が地域の職場体験で経験するなど大きな成果が見られる。今後も、不登校対応巡回教員と登校支援委員会を中心とした不登校対応をさらにアップデートしていく。

オ いじめ防止等の取組

いじめはどの学校でもどの生徒にも起こるとの認識の下、いじめ防止対策推進法等を遵守し、教職員がいじめについて組織的に対応するとともに、保護者、地域住民、関係機関等との緊密な連携により、いじめ問題に正面から対峙し、これを解消する。

→ 本校のいじめ認知件数は前年度から大きく増加して100件であり、いじめ防止対策推進法に示された対応を踏まえ、年度内にいじめを解消できる見通しとなっている。学校の教職員がいじめについて正しく理解し、いじめを認知する感度が高くなり、件数が増加している。このことは、本校のいじめ対策が法に沿って適切に実施されている証であると考え。学校評価アンケートでも、2回の実施において本校のいじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいるという項目において、「当てはまる」「だいたい当てはまる」との回答が7月は80%、12月は73.5%であった。このことから本校のいじめ総合対策について理解が深まっていると考える。令和8年度も引き続き、いじめ総合対策を確実に実施し、法に沿った対応を行うとともに、いじめをしないという文化の醸成に努める。

カ 特別支援教育の充実

八王子市第五次特別支援教育推進計画に基づき、障害の有無にかかわらず、次世代を担う全ての生徒の自立と社会参画をめざし、切れ目なく生徒一人ひとりの発達や教育的ニーズに応じた適切な指導と学習機会の充実を組織的に行う。

→ 八王子市第五次特別支援推進計画に基づき、特別支援校内委員会を定期開催し、支援が必要な生徒等について発達段階に応じた支援の手だてを議論し、保護者等の協力の下支援を継続することができている。学校評価アンケートでは学校は、特別支援教育(特別な支援を必要とする子どもに対しての教育)に取り組んでいるという項目では、「当てはまる」「だいたい当てはまる」との回答が7月は47.7%、12月は49.3%である。一方、「わからない」と回答した方が7月は43.6%、12月は41.2%で保護者等の特別支援教育についての理解が十分ではない状況が分かる。このことから、令和8年度はさらに本校の特別支援教育についての広報を行い、理解を図る。

キ 小中一貫教育のさらなる充実

第五中学校グループ(第一小・第四小)としての共通目標「より高い人間性をめざす人・学び続ける人・健康で生命を大切にする人」の実現をめざし、教職員の創意と工夫により合同・一体となった学習活動の取組や学校行事等を起点にさらなる小中一貫教育の充実を図る。

→学校評価アンケートにおいて、本校が第一小・第四小学校と合同で行う取り組み(「行事への参加や運営参画」「小中一貫教育の日)」を知っているという項目では、「当てはまる」「だいたい当てはまる」との回答が7月は85.1%、12月は87.6%であり、教育活動の取り組みについて理解を頂いた。特に令和7年度は両小学校へ中学生が運動会のボランティアで参加したり、本校合唱コンクールにr6年生が参加し、合唱を披露したりする取り組みや、サマースクールにおいて中学生が小学生に勉強を教えたりするなど一体的な取り組みとなっている。今後もこの取り組みのほかに、教職員のアイデアをもとにアップデートする。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科

- ① 国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて生徒の言語活動を充実させ、単元や題材などの時間のまとまりを見通しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を全教科で実施し、自己肯定感や自己実現の獲得も踏まえた授業改善を行う。その手だてとして、全学年で週4回の朝読書活動の実施、全教科等の学習活動でねらいを深める場面や振り返りの場面において1人1台の学習用端末における授業支援ツールの活用を実施する。
- ② 全国学力・学習状況調査、八王子市学力定着度調査の結果を踏まえ、教科書の例題レベルの問題を解くことができる学力の定着をめざし、週1回のドリル型学習用コンテンツの活用、夏季休業中の各教科補習教室、週2回の「放課後『楽習会』」と授業とを関連付けた学習活動を行い、確実に基礎学力を身に付けさせる。
- ③ 各教科で獲得した知識及び技能を活用して、思考力、判断力、表現力等を相互に関連付け、深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたりする授業改善、学習活動に重点を置き、日常の授業及び単元テストや定期考査を踏まえ、指導と評価の一体化の観点から成果と課題を把握する。

→主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びを手段として、生徒の学力を向上させるための授業改善と週1回のドリル型学習コンテンツを活用するなど段階的に実施した。特に4人から3人の学習班(小集団)による

学びの共同体を導入し、教師が一方向的に教える授業から、教師がファシリテーターとなって生徒同士が学び合う環境を整えた。結果、数学科では定期考査における正答数が上昇したり、英語科では英語スピーキングテストのスコアが前年度比で大幅に上昇したりするなど成果が見られるようになった。また、授業中に居眠りをする生徒が激減するなどの成果も見られた。学校評価では、学校は授業において説明、板書、話し合い活動、ICT機器(1人1台の学習用端末等を含む)の活用などの工夫に取り組んでいるという質問について、回答では「当てはまる」「だいたい当てはまる」が7月では82.1%、12月は82.4%と8割以上が肯定的な評価である。また、学校の学習活動に対する評価は、適切・公平であるという質問の回答では、「当てはまる」「だいたい当てはまる」が7月は60.1%、12月は67%と肯定的な回答が上昇した。令和8年度はさらに授業改善を進め、生徒の学力向上を図る。

イ 総合的な学習の時間

- ① 第1学年では「八王子市の日本遺産や郷土の浅川」「社会とのつながり、食・農業」をテーマに探究し、「がさがさ体験」を実施して豊かな郷土の自然や紡がれた文化について八王子市環境教育アドバイザー等を講師に招聘し、主体的、体験的に学ぶことを通して、八王子の魅力や郷土愛を育む。また、農業及び民泊体験を通して、社会とのつながりの大切さや日本の豊かな食を支える農業について学びを深めさせる。
- ② 第2学年では「地域の課題解決」をテーマにこれまでの職場体験を改善し、地元の各事業所の協力の下、アントレプレナーシップ教育を実施し、課題に挑戦するための姿勢と方法、基礎的・汎用的能力、社会的・職業的自立に向けて将来の生き方に必要と基盤となる資質・能力を育む。
- ③ 第3学年では「京都・奈良の日本遺産や世界遺産を始めとする歴史、文化、芸術、食」をテーマに国語科や社会科、美術科、技術・家庭科等において教科横断的、主体的な探究活動を行い、問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理、分析して、まとめ、表現できる力を育成する。

→第1学年では、浅川のガサガサ体験は猛暑等の影響もあり実施できなかった。一方で、新規の農業体験(大田原市民泊)を実施し、社会とのつながりや日本の豊かな食を支える農業について学びを深める活動を実施した。生徒の学習の振り返りでは、体験を通して学んだこと、肯定的な感想が多く聞かれている。

第2学年では、職場体験の見方、考え方を整理し、アントレプレナーシップ教育(起業家精神、経営者の視点、従業員の視点、顧客の視点から課題を改善する)を導入し、導入初年度として一定の成果が生徒に見られた。第3学年では修学旅行を通して、京都・奈良の日本遺産や世界遺産を始めとする歴史、文化、芸術、食等について教科横断的な学びとして成果が見られた。

学校評価では、子どもの学級では、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう指導が行われているとの質問において、「当てはまる」「だいたい当てはまる」が7月は80%、12月は80.4%と高評価を得ている。

令和8年度はキャリア教育をさらに充実させ、小中9年間を貫いた学びとなるよう、第五中学校グループ(第一小・第四小)と合同一体となった取り組みを加速させる。

ウ 特別活動

- ① 学級活動における係や委員会活動については、多様な他者と協働する集団活動の意義や活動を行う上で必要な考え方等を理解した上で、生徒が主体的にボトムアップで企画・提案・討議し、必要なプロセスを経て決定し、行動できる力を身に付けさせることを学校全体で取り組む。
- ② 生徒会活動、体育大会、合唱コンクール、小中一貫教育で合同・一体で行う行事、集団宿泊的行事において、集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成や意思決定することを通して、互いの良さや可能性を発揮できる場や「調和と協調」に基づくウェルビーイングに向けて意図的・計画的に設定する。

→学校行事等における企画については、教師が主導するのではなく、生徒が主体的に学校行事等の内容を考え、実施・運営を行っていくことについて、令和7年度は、体育大会学年種目決めなど実行委員の生徒が中心となって学級討議のプロセスを経て決定されたものも出てきている。また、生活委員会を中心として、生活の決まりの見直しを行い、生徒総会のプロセスを経て、最終的に学校が決めていく流れが定着しつつある。令和8年度はさらにそのような取り組みを拡大・アップデートし、生徒が学校行事等に参画し、やりがいや達成感、課題解決を経験できる教育活動を進めていく。

(2) 「特別の教科 道徳」を要とする道徳教育

- ① 道徳教育全体計画を基に、日常の教育活動を通じて全教職員が人間としてよりよく生きるための道徳的価値について語ったり、話題に出したり、学びと関連付けたりして学校教育活動全体を通じた道徳教育を一層充実させる。また、別葉に道徳教育に係る内容項目を記載し、道徳的価値について横断的な共通理解を図る。
- ② 道徳科では重点内容項目として「自主、自律、自由と責任」、「思いやり、感謝」、「友情、信頼」、「相互理解、寛容」、「公正、公平、社会正義」、「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」の7項目とし、人間としてよりよく生きるとは何かを考え、議論する授業に改善し、道徳科を要として、道徳教育の補充・深化・統合を行う。
- ③ 道徳授業地区公開講座では、学校、地域、保護者が一体となり道徳教育が行われるよう、特別の教科 道徳の授業参観及び協議会を実施し、地域や保護者のニーズを踏まえた道徳教育を行う契機とする。

→道徳科の授業では全教員がローテーションで授業を担当し、実施した。また、道徳授業地区公開講座では、外部講師を招聘し、道徳教育について、保護者に講演会形式で実施し、前年度比で50名近くの保護者の参加があった。学校評価では学校は特別の教科 道徳を含む教育活動全体を通して、子どもたちが自分の大切さ、都の人の大切さを認め、行動できるような教育を進めているという質問について、回答では「当てはまる」「だいたい当てはまる」が7月は81.1%、12月は78.1%であり、肯定的な回答は高水準を維持している。令和8年度は道徳教育及び道徳科の充実のため、授業改善を行う。

(3) キャリア教育

- ① 「はちおうじっ子キャリア・パスポート 第五中学校版」を作成し、小学校の学びを活かしたキャリア教育の場面で学習活動の内容、地域の活動を記録し、振り返ることを通して、新たな学習や生活への意欲につなげたり、考えたりする活動につなげる。特に「振り返る力」の成長に伴走するよう、指導に重点を置く。
- ② 主体的な進路の選択と将来設計を描けるよう、生徒一人ひとりが目標をもって、自らの生き方や進路に関する適切な情報を1人1台の学習用端末や学校図書館等の活用を通して、収集・整理し、自己の個性や興味・関心を考えさせる学習活動に改善する。

→令和7年度より、はちおうじっ子キャリア・パスポート 第五中学校版を作成した。小学校からの学びを踏まえ、中学校における生徒自身の学びへの課題設定、学びのプロセス、学びの振り返りが一元化できている。また、1人1台の学習用端末を活用した調べ学習の中から、新たな問いを見出せるよう、各学年で創意工夫した問の設定を行った。学校評価アンケートでは、学校ははちおうじっ子キャリア・パスポート 第五中学校版等を用いて、子どもの生き方や将来についてのキャリア教育を行っていることを知っているとの質問について、回答では「当てはまる」「だいたい当てはまる」が7月は73.7%、12月は75.2%と肯定的な評価を頂いている。

(3) 特別支援教育

- ① 対象生徒の障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し、全ての時間、在籍学級で学校生活を送れるよう学校生活支援シート及び個別指導計画（連携型個別指導計画）を家庭、校内委員会、スクールソーシャルワーカー等と連携し生徒一人ひとりに合った支援及び在籍学級における支援に結び付けられるようにする。
- ② 障害の有無にかかわらず、全ての生徒の学習機会が得られ、支援が充実したものとなるよう、個別の教育的ニーズに最も的確に応える指導方法の改善と支援体制の整備を行い、自立と社会参画ができるよう、特別支援教室と通常学級の連続性のある学びの場を全学級で提供する。

→校内特別支援委員会における特別な支援が必要な生徒へのアセスメントや支援方法等を検討し、一人ひとりにあつた支援を実施した。また、東京都の巡回心理士と連携したアセスメントを実施し、円滑かつ実効性のある個別支援を実施した。

(5) 生活指導

ア 生活指導

- ① 生活のきまりは全生徒が自らの学校生活を振り返り、改善案を生徒会が中心となり検討できるよう支援を行う。また生徒総会等の検討の必要なプロセスを得て最終的には学校が責任をもって生活のきまりを決定する。
- ② セーフティ教室や月1回の安全指導日に、安全教育プログラムを計画的に活用したり、講師の講話から危険を予測したり回避する能力を身に付けたりするなど、他者や社会の安全に貢献できる資質・能力を育成する。
- ③ 生徒が性犯罪、性暴力の加害者、被害者、傍観者とならないよう、「生命（いのち）の安全教育」を全学級で年1回以上実施する。指導する際は、「『生命（いのち）の安全教育』指導資料の手引き」を活用し、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また性暴力が及ぼす影響な

どを正しく理解させ、生命を大切に考えることや、自分や相手、一人ひとりを尊重する態度等を身に付けさせる。

→生徒が製版税、性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、「生命(いのち)の安全教育」を実施した。また第2学年を対象に、薬物乱用防止教室を八王子警察と連携して実施した。

イ いじめ防止等の取組

- ① 常設の学校いじめ対策委員会を週1回以上実施し、いじめ防止対策推進法を遵守した対応を行う。また週1回以上の情報共有の時間では生徒の状況や対応記録の作成など共通理解を図り、教員が一人で抱えない体制づくりをめざす。
- ② 年4回のいじめに関するアンケートの実施と聞き取り、管理職報告を徹底し、いじめを見逃さない体制を継続するとともに、楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)の調査結果を全教員で分析し、生徒一人ひとりへの対応について共通理解を図る。
- ③ 6月に八王子市いのちの大切さを共に考える日を設定し、全校朝礼での校長講話と道徳科における生命の尊重をテーマとし、生徒一人ひとりが命の連続性や有限性について考えを深められる取り組みを行う。

→本校のいじめ認知件数は前年度から大きく増加して100件であり、いじめ防止対策推進法に示された対応を踏まえ、年度内にいじめを解消できる見通しとなっている。学校の教職員がいじめについて正しく理解し、いじめを認知する感度が高くなり、件数が増加している。このことは、本校のいじめ対策が法に沿って適切に実施されている証であると考え。学校評価アンケートでも、2回の実施において本校のいじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいるという項目において、「当てはまる」「だいたい当てはまる」との回答が7月は80%、12月は73.5%であった。このことから本校のいじめ総合対策について理解が深まっていると考える。令和8年度も引き続き、いじめ総合対策を確実に実施し、法に沿った対応を行うとともに、いじめをしないという文化の醸成に努める。(再掲)

ウ 不登校生徒への支援等

- ① 不登校総合対策「つながるプラン」を踏まえ、不登校生徒の実態、支援ニーズを把握し、社会的自立に向けた具向けた具体的な取組「校内登校支援教室(リソースルーム)」の知見を活かし、持続可能な登校支援に改善する。
- ② 登校支援コーディネーターが核となり「登校支援委員会」を開催する。また、不登校巡回拠点校として不登校巡回指導教員と「個票システム」の活用による不登校生徒の早期把握・対応、関係諸機関との連携を図る。

→不登校総合対策では、不登校別室指導教室(リソースルーム)における登校支援が充実し、学校には来られないが教室には入れない生徒等が毎日活用し、個別最適な学びを中心に自己調整して教育活動に取り組んでいる。その中から4名の生徒が教室復帰できている。また、給食センターや市立図書館などを活用して出席となっている生徒も複数出現している。併せて、不登校で職場体験などができなかった生徒についても、希望者が地域の職場体験で経験するなど大きな成果が見られる。今後も、不登校対応巡回教員と登校支援委員会を中心とした不登校対応をさらにアップデートしていく。(再掲)

(6) 特色ある教育活動

ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組

(取組1) 教育9年間を見通した小中一貫教育の取組「はちおうじっ子サミット(いじめ防止)」についての協議として児童会・生徒会の合同会議を行う。また、小学校第6学年を対象とした中学校合唱コンクールの参観や体育大会等の合同競技及び中学生による小学校の運動会運営参画、部活動地域クラブ体験等を行う。

(取組2) 学力定着プロジェクトチームを中心とした各教科等の指導の改善を行い、学力の定着・向上をめざす。また、「家庭学習ノート」やドリル型学習コンテンツを活用し、個別最適な学習環境を充実させる。

(取組3) 各学期に一度行う小中一貫教育の日では、児童・生徒の背景や、気付きと手だてについて話し合う協議会を設定し、小・中教職員の共通理解を深める。

(取組4)「地域の子どもは地域で育てる」視点を基に、年に3回行われる青少年対策第五地区委員会主催のクリーン活動では、児童・生徒、地域、小・中教職員が一丸となって参加する。

→いじめ防止に向けたピンクシャツデーの参加、はちおうじっ子サミットなど第五中学校グループ(第一小・第四小)の児童・生徒が話し合いいじめ防止見向けた取り組みを実践している。

→年間3回実施している小中一貫教育の日の取り組みとして、学力定着プロジェクトチームや各教科における分科会での話し合いにより、学力の定着に向けた授業改善や学習状況の実態についての分析など着実に進んでいる。

→年間3回実施の青少年対策第五地区委員会主催のクリーン活動では、児童・生徒が毎回多数参加し、地域の中で児童・生徒が活動する機会を創出している。

→学校評価アンケートにおいて、本校が第一小・第四小学校と合同で行う取り組み(「行事への参加や運営参画」「小中一貫教育の日」)を知っているという項目では、「当てはまる」「だいたい当てはまる」との回答が7月は85.1%、12月は87.6%であり、教育活動の取り組みについて理解を頂いた。特に令和7年度は両小学校へ中学生が運動会のボランティアで参加したり、本校合唱コンクールにr6年生が参加し、合唱を披露したりする取り組みや、サマースクールにおいて中学生が小学生に勉強を教えたりするなど一体的な取り組みとなっている。今後もこの取り組みのほかに、教職員のアイデアをもとにアップデートする。(再掲)

イ 学力向上の取組

① 定期考査前の一定期間を活用し、国語科、数学科、外国語科を中心に補習学習を実施する。

② 「はちおうじっ子ミニマム」の経年での変化を確認し、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着をめざす。

→各教科等における補習を実施し、基礎学力の定着が達成されていない生徒への学習機会の充実を図っている。併せて、はちおうじっ子ミニマムを年間2回実施し、小学校5年生まで身に付ける学力の定着を図り、一定の成果が見られている。

→主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びを手段として、生徒の学力を向上させるための授業改善と週1回のドリル型学習コンテンツを活用するなど段階的に実施した。特に4人から3人の学習班(小集団)による学びの共同体を導入し、教師が一方向的に教える授業から、教師がファシリテーターとなって生徒同士が学び合う環境を整えた。結果、数学科では定期考査における正答数が上昇したり、英語科では英語スピーキングテストのスコアが前年度比で大幅に上昇したりするなど成果が見られるようになった。また、授業中に居眠りをする生徒が激減するなどの成果も見られた。学校評価では、学校は授業において説明、板書、話し合い

活動、ICT機器(1人1台の学習用端末等を含む)の活用などの工夫に取り組んでいるという質問について、回答では「当てはまる」「だいたい当てはまる」が7月では82.1%、12月は82.4%と8割以上が肯定的な評価である。また、学校の学習活動に対する評価は、適切・公平であるという質問の回答では、「当てはまる」「だいたい当てはまる」が7月は60.1%、12月は67%と肯定的な回答が上昇した。令和8年度はさらに授業改善を進め、生徒の学力向上を図る。(再掲)

ウ その他

- ① 第五中学校グループとして「情報活用能力系統表」を活用した義務教育9年間を見通したICT活用に関する資質・能力の育成をめざす。
- ② 「第五中学校2020レガシー」として、「心のバリアフリー」を掲げ、共生社会をテーマに道徳科の授業を行う。
- ③ 部活動改革を令和7年度に加速させ、生徒の活動できる場を地域や地域クラブと連携し、拡大、充実させる。

→部活動改革は定着し、令和8年度も本校の部活動を地域クラブやゆるやかな活動も含め、部活動改革を進めていく。